

2 各教科の指導改善に向けて【国語】

(1) 成果として認められる内容

*「正答率がおおむね80%を上回るもの」を「成果として認められる内容」として整理(国立教育政策研究所 HP より)。

*「出題の趣旨」が同じ問題であっても、出題の仕方が異なることにより、正答率が変動することもあります。

《小学校・国語》

目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関係付けて読むことに、指導の成果が表れています！



♪この指導は「子どもの目線に立つ 2015 第2弾」(指導改善資料)にも掲載。

- ・ 写真や図などの効果を実感させ、効果的に使うことができるように指導する。
- ・ 複数の資料と比べたり文章と図とを関係付けたりしながら、すべての領域の指導を通して自分の考えを書くことができるように指導する。



小学校 A問題 5 県速報値【94.1%】 無解答率【岐阜県】0.2%

<出題の趣旨>

- ・ 目的に応じて、図と表とを関係付けて読むことができるかどうかをみる。

<問題の概要>

- ・ 公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する。

<同一の過去問題>

平成25年度 小学校 **A問題 5 ア、イ**

ア【岐阜県】57.8% 【全国】61.1%

イ【岐阜県】69.0% 【全国】71.7%

<問題の概要>

- ・ マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する。



○その他、課題とされてきた内容について、指導改善の成果があったと分析される問題の例

・ **小学校 A問題 4 県速報値【81.1%】**

<問題の概要> 委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する。

・ **小学校 B問題 3 二 県速報値【79.8%】**

<問題の概要> 「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係付けてまとめたものとして、適切なものを選択する。

《中学校・国語》

情報を活用しながら、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えることに、指導の成果が表れています！



♪この指導は「子どもの目線に立つ2015第1弾」(指導改善資料)にも掲載。

- ・複数の資料と比べたり、文章と図とを関係付けたりしながら自分の考えを書くことができるよう指導する。
- ・目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることができるよう指導する。



中学校 B問題 1 一 県速報値【81.2%】 無解答率【岐阜県】0.2%

<出題の趣旨>

- ・文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えることができるかどうかをみる。

<問題の概要>

- ・ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する。

<過去の類似問題(出題の趣旨が同様の問題)>

平成27年度 中学校 **B問題 2 二**

【岐阜県】69.8% 【全国】67.8%

無解答率【岐阜県】0.4% 【全国】0.3%

<問題の概要>

- ・雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する。

○ その他、課題とされてきた内容について、指導改善の成果があったと分析される問題の例

・ **中学校 A問題 9 三ア 【91.8%】**

<問題の概要>

適切な語句を選択する。(彼は、忙しい仕事の合間を縫って、私に会いに来てくれた)

・ **中学校 A問題 9 七1 【82.8%】**

<問題の概要>

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(追ひし)



— 【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

1 漆、和紙、織物などの日本の伝統文化は特別なものではなく、現在の生活とつながりがあると知ってもらおうこと。

2 日本の伝統文化の代表である漆、和紙、織物を同時に展示し、それぞれの特徴を比較してもらおうこと。

3 国内の各地で漆、和紙、織物の順で生まれ、発展してきた日本の伝統文化の歴史的背景を理解してもらおうこと。

4 世界の優れた職人の手によって作り出された漆、和紙、織物などの高級品の数々を鑑賞してもらおうこと。

(2) 今後の指導改善に向けて

① 課題として取り組んでいきたいこと

*この項目では、ぜひとも6、7月に指導したいことの詳細を紹介しました。

○言葉の特徴やきまり、文字について正しく理解すること

5つの指導ポイント

全教科の学習を通して、これだけはやりきろう!

ポイント1 児童生徒の手元に常に辞書・事典がある授業

理科

- ・植物や昆虫について図鑑を使って調べる。
- ・雲の種類を、百科事典を使って調べる。

国語

- ・教材の文中で使われている語句や文章を書く際に必要な語句を、辞書を使って調べる。(第3学年以上は、辞書必携です。)

総合的な学習の時間

- ・お礼の手紙を書くときに、正しい言葉遣いかどうかを調べたり、調べたことをまとめるときに、用語が正しいかどうかを調べたりする。

【国語辞典や漢和辞典を利用して、意味を答える問題】

問 題	岐阜県	全国
H26 小A ⑧ はかる	72.1%	74.3%
H26 中A ⑧ 四 英気を養う	60.0%	59.9%
H28 中A ⑨ 四ア 賛美	61.7%	←県速報値
H28 中A ⑨ 四イ 優美	60.1%	←県速報値

- ・各教室(個々)に辞書の常備
- ・必要に応じ、即時的に使う

第3学年及び第4学年 ※一部省略
(カ) 辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

ポイント2 ローマ字の日常的な使用場面における指導

- ・機会を捉えた継続的な指導を積み重ねる

社会科

- ・町探検で案内板やお店の名前を読む。
- ・観光パンフレットや県のガイドブックを読む。

外国語活動(英語科)

- ・自分や友だちの名前をローマ字で書く。

全教科

- ・PCを使って、資料作成や資料検索をする(ローマ字入力)

【ローマ字を読んだり、書いたりする問題】

問 題	岐阜県	全国
H21 小A ② たべもの	43.1%	45.5%
H21 小A ② happa	45.9%	51.9%
H27 県小4 ㊦ kippu	75.3%	—
H27 県小5 ㊦ とびら	52.9%	—
H28 小A ⑧ りんご	45.0%	←県速報値
H28 小A ⑧ あさって	41.9%	←県速報値
H28 小A ⑧ hyaku	50.4%	←県速報値

第3学年及び第4学年 ※一部省略

(ア) 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

ポイント3

間違った文字は必ず訂正！ノートの指導

全教科・領域

例（理科）：小学校第6学年「電気と私たちの暮らし」まとめの文

手回し発電機で、モーターのじくを回すと、発電することができる。

自分たちでつくったでんきで、明かりをつけたり、音を出したり、モーターを回すことができる。

朱書き等で指導！

手回し①発電機で、モーターのじくを回すと、発電することができる。

自分たちでつくった②電気で、明かりをつけたり、音を出したり、③モーターを回したりすることができる。

①×電気○電機 違いを辞書で確認。

②でんき→電気 既習の漢字を使う。

③～たり～たりの表現 正しい表現で。

【中学校：熟語の漢字を書く問題】

問 題	岐阜県	全国
H25 きんとう 均等	58.9%	59.3%
H26 はんけい 半径	54.9%	59.5%
H27 しゅくしやく 縮尺	69.9%	72.1%
H28 どうか そう 独創	26.4%	←県速報値

【小学校：熟語の漢字を書く問題】

問 題	岐阜県	全国
H26 よぼう 予防	72.5%	77.4%
H27 びょういん 病院	72.8%	76.5%
H28 そうだん 相談	69.8%	←県速報値

ポイント4

学習した漢字は必ず書かせる指導

全教科

正しい用語の書き方や使い方を指導する。

例（算数・数学科）

・半径12cmの円の…

例（社会科）

・この地区は1/25000の縮尺です。

国語

・小学校「学年別漢字配当表」（1006字）の該当学年の漢字を書けるようにして次学年に進級。

家庭学習の改善

- ・新出漢字を使って短文を5文作る。
- ・新聞のコラム記事を視写する。など

- ・繰り返し練習するだけでなく文脈で理解する。
- ・場面を設定し、日常的に使用する。

ポイント5

読書指導の充実

全教科・領域

- ・シリーズものや同一作家の作品を読む。
- ・推薦読書を設定して、お薦め本を読む（読書感想文に挑戦する）。
- ・必要に応じ、目的的に本を探す。
- ・新聞を活用する。

学校図書館の積極的な活用

読書生活が充実している児童生徒は、文脈からも語句の意味を捉えたり、読んだりすることができる。

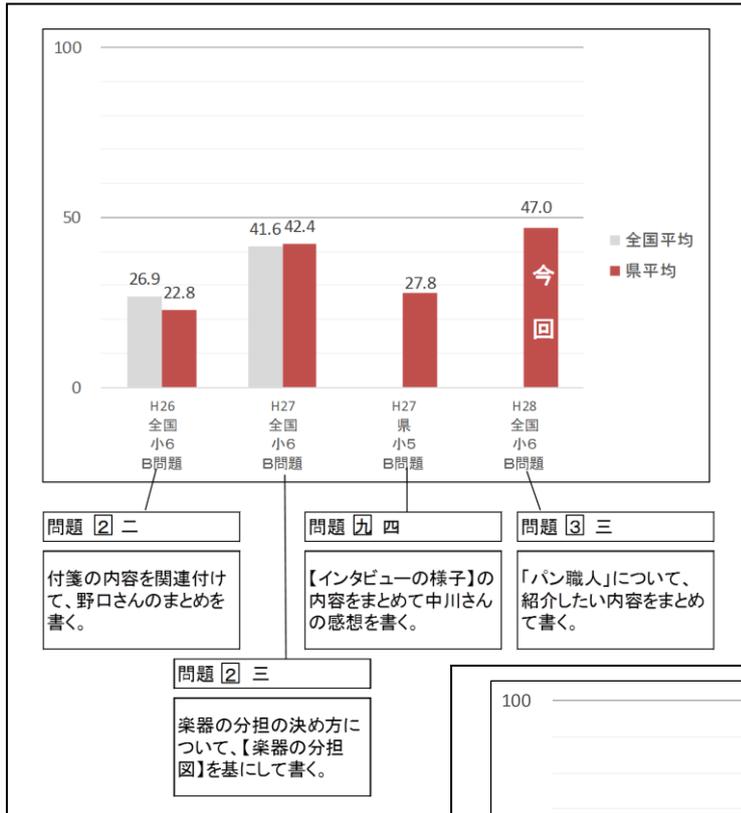
(2) 今後の指導改善に向けて ②その他課題として捉えられること

小・中共通

目的に応じて、文章や資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを書くこと

[小学校] B問題 ③ 三 県速報値【47.0%】

※ 過去の調査における類似・関連問題の正答率

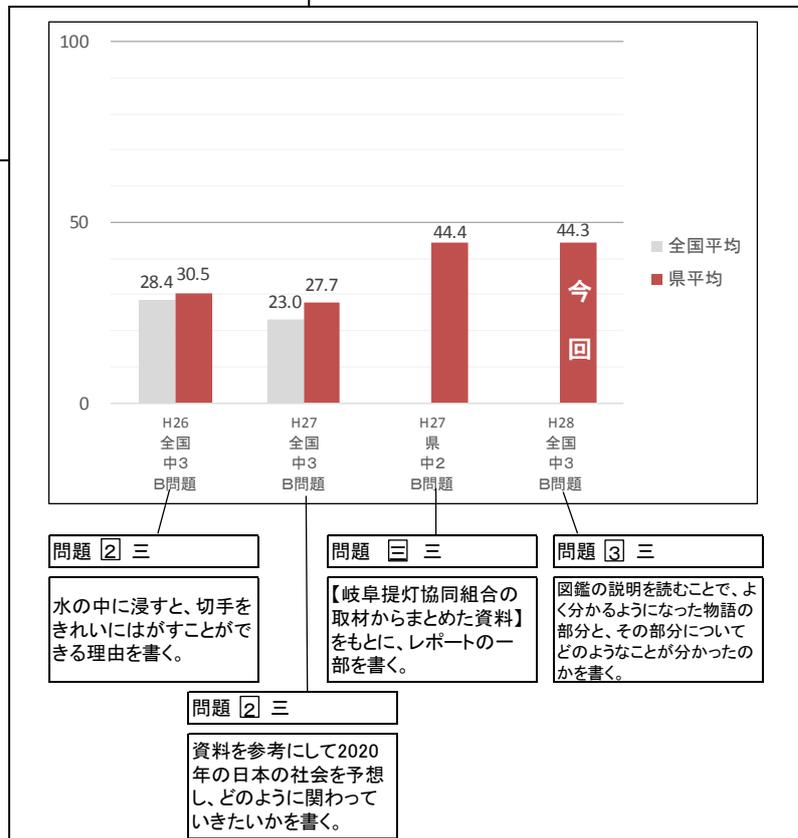


指導のポイント！

まず、「どんなことを」「何のために」「どんな観点から」(読み取るのか)という「目的」を明らかにしておきましょう。その上で、文章や資料(図表)等から必要な情報(語句や数値の変化など)を得るように指導し、それらを根拠にして、自分の考えを書きまとめたり、話したりすることが大切です。15、16ページに示している指導案の「**定着状況を見届ける**」欄にあるように、条件を明らかにして見届けましょう。

[中学校]

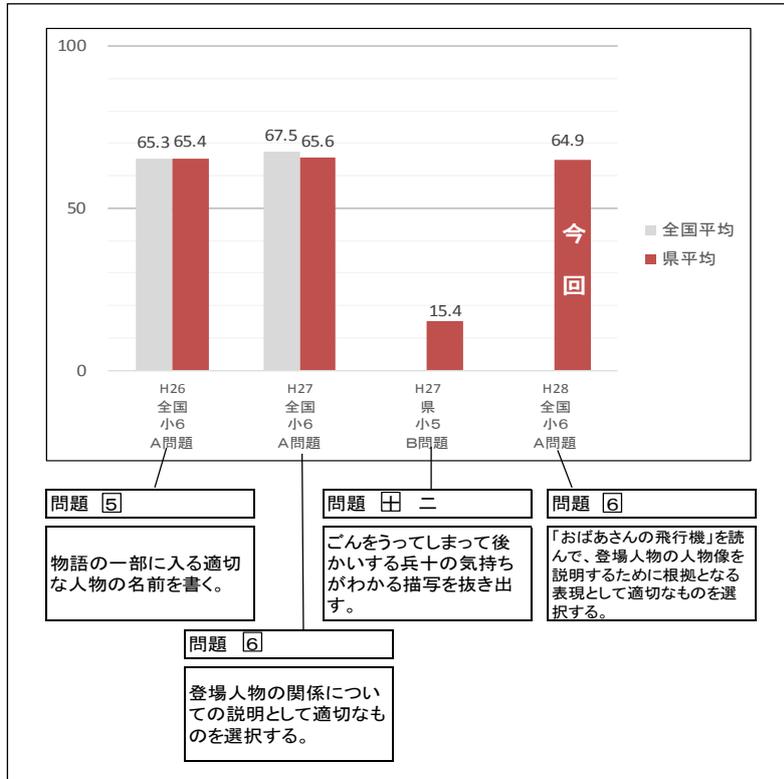
B問題 ③ 三
県速報値【44.3%】



小学校 目的に応じて、登場人物についての描写を捉えること

・ A問題 6 県速報値【64.9%】

※ 過去の調査における類似・関連問題の正答率

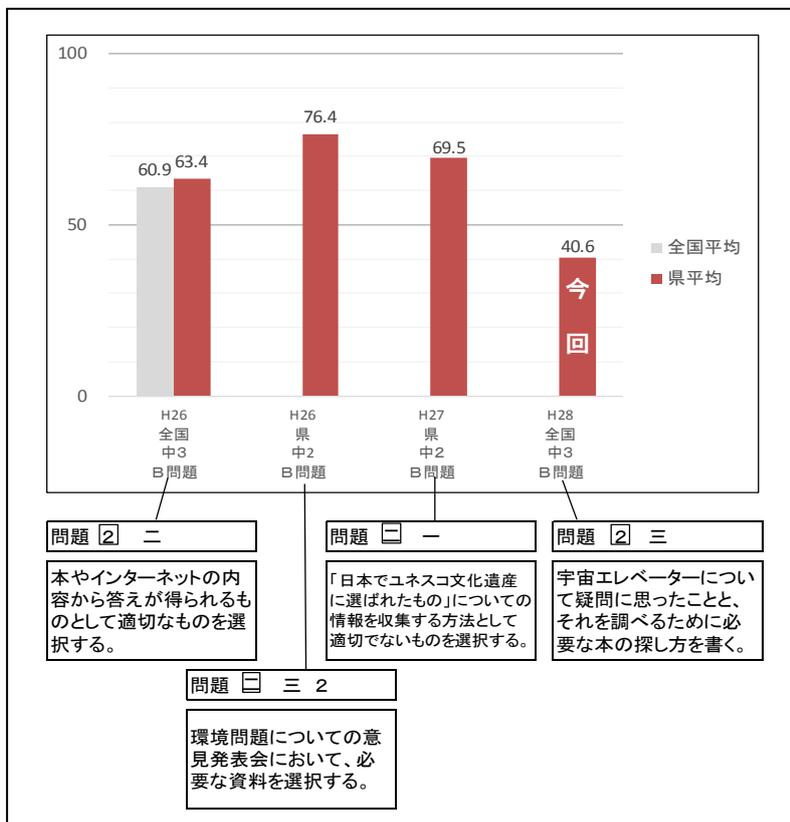


指導のポイント！

人物についての描写とその背景にある心情を捉えるためには、まず、会話や行動描写、情景描写等に注目することが大切です。また、その際には、「目的」(優しさ、喜び、悲しみ…)に合う表現を見出すよう指導する必要があります。その上で、複数の表現を比べてたりつないだりしながら、心情を読み深めていく過程を大切にしましょう。

まずは、13ページに示している、**伝統的な言語文化と国語の特質に関する系統表**を確認し、各学年において身に付けなければならない基礎的・基本的な知識を必ず指導することが重要です。

中学校 目的に応じて、本や資料から調べて、必要な情報を得ること



指導のポイント！

9、10ページに示した、「ポイント1」「ポイント5」をもう一度読みましょう。今求められている児童生徒の姿の一つに、「自立した読書人」(必要に応じて、自ら情報を得ることができる意欲と方法を備えている学習者)があります。

・ B問題 2 三 県速報値【40.6%】

(2) 今後の指導改善に向けて
③6、7月に指導できること

**小・中学校を
通じて大切に
したい指導**

例)「文の構成や表現の技法について理解すること」を指導する場合

⇒**全ての領域において、文の構成や表現方法、表現技法のよさや効果を確認することができるようにしましょう。反復的・螺旋的に繰り返し指導し、定着を図りましょう。**

《小学校第1学年》

教材名：「ぶんをつくろう」

挿絵を見て、「が、。」という文型の文を書くこと。

教材名：「くちばし」

問い「これは、なんのーでしょう。」と答え「これは、ーのーです。」という文を書くこと。

教材名：「これはなんでしょう」

「これは、なんでしょう」クイズで、「これは」の答えを想像し探すこと。

←指導内容の学年内・学年間の系統性を踏まえたとき、このことは確実に身に付けさせたいこと

《小学校第2学年》

教材名：「かんさつ名人になろう」

教材名：「お手紙」

主語と述語を知り、主語と述語のつながりが大切であることを理解すること。

《小学校第3学年》

【コラム】きちんとつたえるために

聞き手に伝わるように言葉を選んで話すこと。

教材名：「修飾語」

修飾・被修飾の関係などについて理解すること。

《小学校第5学年》

教材名：「天気を予想する」

一文が長いときは、語と語のまどまりに注意して読むこと。

【コラム】文の組み立て

主語と述語の関係に着目して文の意味をとらえること。

教材名：「分かりやすく伝える」

主語と述語を対応させて書くこと。



《小学校第2学年》

教材名：「スイミー」

「ーような」「ーみたいな」というたとえをあらわす言葉を使って文を書くこと。

《小学校第3学年》

教材名：「モチモチの木」

「まるでー」「ーみたいだ」「ーようだ」などの言葉を使ったたとえと、様子を分かりやすく表すことができることを理解すること。

《小学校第4学年》

教材名：「初雪の降る日」

くりかえしの表現やくわしくする表現（修飾語）などに気を付けて読むこと。

教材名：「日常を十七音で」

以下の表現の工夫をして俳句を書くこと。
 ・言葉を選ぶ ・たとえを使う など

《小学校第6学年》

教材名：「やまなし」

以下の表現等について自分の考えをまとめること。
 ・「ーのよう」などを使った又は使っていないたとえ
 ・言葉のひびきによって様子を表す言葉



14 ページ[中学校]につながる



14 ページ[中学校]につながる



《中学校第1学年》

教材名：「野原はうたう」

以下の表現技法の効果を意識して音読すること。

- ・倒置…とんでいこう どこまでも
- ・対句…「おれはかまきり」の1連と2連、「いのち」の後半部分
- ・擬態語…どきどき、わくわく、くるくる

教材名：「さまざまな表現技法」

以下の表現技法の種類と効果を理解すること。

- ・体言止め、倒置、反復、対句、省略、直喩、隠喩、擬人法、擬声語、擬態語

《中学校第2学年》

教材名：「見えないだけ」

以下の表現技法の効果を確かめながら音読すること。

- ・擬人法…海が眠っている
- ・体言止め…優しい世界、美しい季節
- ・対句…空の上には～ 波の底には～、胸の奥で～ 次の垣根で～

教材名：「新しい短歌のために」「短歌を味わう」

以下の表現技法を参考に短歌を作ること。

- ・擬人法、体言止め…不^{こずかた}来方のお城の草に寝ころびて空に吸われし十五の心
- ・対句…君には一日我には一^{ひとひ}生^{ひとよ}

16 ページ：
指導案へ

《中学校第3学年》

教材名：「俳句の可能性」「俳句を味わう」

以下の表現技法に着目し、表現の仕方などを読み味わい、俳句の世界に親しむこと。

- ・体言止め…泡の中、石の上、寒牡丹
- ・反復…分け入っても分け入っても
- ・直喩…日と月のごとく
- ・擬声語…ぽぽと
- ・隠喩…金剛の露
- ・擬人法…冬菊のまとふはおのがひかりのみ

《小学校第2学年》

教材名：かんさつ名人になろう

本時のねらい

「何が」をはっきりさせて書くと、いきもの様子がよく分かることに気付き、自分のお気に入りのいきものの「何が」をはっきりさせた文章を書くことができる。

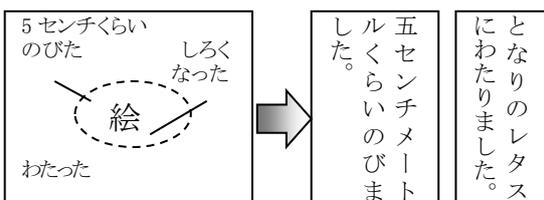
本時の展開略案（2 / 5）

＜単元の課題＞

自分のお気に入りのいきものを1年生に分かりやすく伝えられる、かんさつ名人になろう。

1 課題を把握する。

- ・教師の提示したモデル文（「何が」が抜けている文）から、どうしたら、ようすがよく分かる文になるかを話し合う。



「何が」をはっきり書いて、ようすを分かりやすく伝えるかんさつ名人になろう。

2 個人で追究する。

- ・「どうなっている」のは「何が」なのかを明らかにしてかんさつ文を書く。
- ・書けない児童は、実物や絵、教師との対話を手がかりに「何が」を明らかにする。
T：「どんなことを書きたいですか？」
T：「どこのことですか？」
- ・「何が」が書いてあることのよさを考える。

3 ペアで本時の学習課題を確かめる。

- ・「何が」が書けているか確かめ合う。
- ・「何が」が書いてあると何がよく分かるのかを伝え合う。

「体が、ぐんぐんとのびました。」「体が」が書いてあると、かたつむりの体がのびるようすがよく分かったよ。

4 本時の学習を振り返る。

○実態を見届ける(見極める)

- 既習の内容の定着を見届ける。
 - ・様々な視点から観察できるか（色、形、大きさ、高さ、太さ、重さ、さわった感じ、におい、数）。
 - ・知らせたいものの絵と見つけたことを短い言葉で書けるか。
 - ・観察文を書く単元の学習であることが分かり、かんさつ名人になろうという意欲がもてているか。
- ※前時までに書いたかんさつカードや生活科等の様子から実態を見届ける。
- 授業のねらいを見極める。
 - ・「何が」を明らかにして書くと、様子や動きがよく分かる文になることを実感させることをねらいとする。

○学習状況を見届ける

- 「何が」が書けているかについて、児童が書いているプリントから見届ける。
 - ・「何が」は「どうなっている」と合っているか。

○定着状況を見届ける

- 「何が」が書けているか、また、「何が」が書いてあることのよさを感じているかについて見届ける。
 - ・定着が十分でないと思われるペアを中心に下記の点を中心に机間指導を行う。
 - ・「何が」は「どうなっている」と合っているかを一緒に確認する。
 - ・「何が」が書いてあることのよさについて問いかけ、必要に応じて話型を示し、が書いてあると、がよく分かることを理解させる。
- ※今後の生活科の学習等において、「何が」が書けているかを見届ける。

《中学校第2学年》

教材名：「新しい短歌のために」 「短歌を味わう」

本時のねらい

伝えたいことに適した表現技法の用い方とその効果を明らかにすることで、自分の伝えたい情景や感動を豊かに表現した短歌を作ることができる。

本時の展開略案（5／6）

1 課題を把握する。

モデルを比較して表現技法を使うよさを確認する。

表現技法を効果的に使い、情景や感動を豊かに表現する短歌を作ろう。

2 個人で追究する。

- ・書くことにつまずく生徒は、マス目や短歌の一部を掲載した用紙に書く。

十五の心 ← 【体言止め】

3 仲間のよさを知り、個人で追究する。

- ・教師の提示した仲間の下書き用紙のよさを知り、自分の下書きを見直す。
- ・短歌の見直しだけでなく、短歌の説明部分についても見直しを行う。

4 グループ交流を行う。

- ・交流の視点（表現技法の工夫を含む。）を明確にしたチェック表を活用し、仲間の短歌のよさを見付ける。

5 本時の学習のまとめを書く。

（前略）「鏡の海に」と「倒置」にすることで、私が感動した情景が強調されて伝わるし、「鏡の海」と隠喩を使うことで、太陽を反射して光り輝く海の美しさをより表現できたと思います。

○実態を見届ける(見極める)

- 既習の内容の定着を見届ける。
 - ・10種類の表現技法（体言止め、倒置、反復、対句、省略、直喩、隠喩、擬人法、擬声語、擬態語）と効果が言える。
- ※帯学習やプレテスト等から、表現技法に関する知識・理解の状況を見届ける。
- 授業のねらいを見極める。
 - ・表現技法の効果を理解して取り入れることで、情景や感動を豊かに表現した短歌を作ることを見届ける。

○学習状況を見届ける

- 短歌に取り入れた表現技法について、次の学習状況を見届ける。
 - ・短歌で表現したい情景や感動と、選択した表現技法の効果が合っているか。
 - ・表現技法の工夫によって、短歌のリズムが乱れていないか。
 - ・複数の表現技法を取り入れたり、他の表現技法と置き換えたりすることで、より豊かな表現を求めているか。
 - ・交流の視点に基づいて、仲間の短歌の表現技法の工夫やその効果について評価しているか。

○定着状況を見届ける

- 効果的な表現技法を取り入れて、豊かな短歌を作ることができたかを見届ける。
 - ・自分の短歌に取り入れた表現技法について、その効果と伝えたい情景や感動とを関係付けて書けたか見届ける。
- ※本時に身に付けた表現技法とその効果を、他領域での学習に生かしているかどうかを見届ける。